

【湖山】地域の未来づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和6年7月9日(火) 18時30分～20時10分
- 2 場所 湖山地区公民館
- 3 出席者 地区12名 市7名【市民生活部長（協働推進課）、危機管理部長（危機管理課）】
- 4 テーマ 災害時の避難場所整備・強化について
- 5 概要

【地元あいさつ】

湖山地区の自主防災会は、自治会から独立して活動しているが、なかなか高度化していかないことを歯がゆく思っている。自治会活動の中で、安全安心のまちづくりが一丁目一番地だと思っておりこのテーマとした。今日は率直に質問をぶつけ、理解を深めていき、鳥取市のアドバイスもいただきながら、地域としてできるだけ安心安全の取り組みが、一步でも地区民に行き渡るようなものにしていきたい。

【市民生活部長あいさつ】

今日は午前中から雨が降っており、昼過ぎには警報が出るのではないかと一時、延期の検討も行ったが、何とか雨が上がり無事に開催することができた。令和6年度は湖山地区がスタートとなる。テーマが「災害時の避難場所整備・強化」ということで、危機管理部の方に来ていただいた。より深く、より専門的な話ができるかと思っている。忌憚のない意見を言っていたきたい。

【危機管理部長あいさつ】

防災については、昨今全国で、局所化・激甚化ということが叫ばれており、皆さんの関心の高い分野かと思う。鳥取市がどのような考え方で動いているかということをご説明させていただくとともに、地域の皆様の感じておられる部分、ご意見をしっかり受けとめ、施策に反映させていく上での参考意見とさせていただきたいと思っている。今日はこのような議題を選んでいただき感謝申し上げます。

テーマ「災害時の避難場所整備・強化について」

【地元(説明)】

《テーマの背景と理由》

湖山地区の指定避難所は、湖山小学校（想定避難対象約290世帯）と湖東中学校（約440世帯）があり、指定緊急避難場所として、湖山地区公民館、緑風高校、湖山体育館（3施設計約770世帯）がある。人数からいえば、この5施設で約4,300人を収容でき、自治会加入の約1,400世帯がカバーにできているが、緑風高校については、洪水時は2階以上ではないと使えず、湖山体育館については地震のときは使えないということで実際の受け入れのときに懸念が生じている。また、特に湖山川よりも東側（湖山駅の南側から布勢の方にかけて）の浸水の被害想

定地域については、緑風高校が避難場所になっており、実際に浸水の被害が発生しそうなときには緑風高校は2階以上ではないといけないということで、改善の余地はないかと思っている。湖山地区の人口は約7,500人で、全員が避難するわけではないが、受け入れができるだろうかと懸念が生じている。この辺り、鳥取市がどのように考えているのか、何か改善策はないのかということとを議論したい。

また、鳥取大学と連携協定を結んでいると承知しているが、相互利用ができないか等、内容を教えていただきたい。あわせて、浸水の状況にもよるが、浸水想定地域は湖山小学校に行くより布勢の体育館の方が遥かに近く、湖山川を渡らないで済むため、湖山地区の住民があらかじめ想定できるのか話をしたい。

これまでは、大規模災害について話をしたが、進めておられるのが、自宅での垂直避難ということで、私の町内会でも第一次は垂直避難と言っている。だが、2階には足が痛くて上がれないという町内のお年寄りの声があり、近くの集会所を第一次的な避難所と考え、整備を行っている。これに対する助成や支援等についても意見交換を行いたい。

《地域の取り組み》

自主防災会の取り組みとして、去年は、8月19日に防災リーダー、消防団、役員等を対象に公民館で学習の後、湖山小学校で避難所体験を行った。また、9月中には合同避難訓練に変えて、避難行動のアンケートを行い、773世帯から回答があり、この状況について個々の町内会にアンケートの実施結果を返している。9月24日には消防団に援助をいただき、起震車体験や心肺蘇生の体験、煙トンネル体験、非常食の試食等、防災フェスタを行っている。また、11月には避難所の開設訓練として、湖山小学校で、実際のレイアウトの実地訓練等を行っている。

毎年このような内容で、防災に対する意識や認識を深める活動を行っている。

《課題(アドバイスをお願いしたいこと)・意見交換》

まず、湖山小学校と湖東中学校が指定避難所になっているが、特に大規模災害時は無理だろうというふうに思っている。避難訓練等については体育館しか利用していないが、教室等を使った訓練ができないか。お年寄りや障がいのある人など、部屋分けは必要であり、実際に想定して利用をしてみないと混乱すると思われる。校舎の鍵が開けられるようになったが、自主防災会の会員や、町区長等が一番に来るとは限らないため、体制整備をする上で手順等について聞いておきたい。また、避難者の想定人数について、あれば教えていただきたい。

次に、備蓄品についてだが、湖山地区に防水シートが100枚、標識ロープが10巻等用意されている。災害の規模にもよるが、すぐになくなってくるものがあるのではないかと。これらについてはある程度想定人数を出して配置されているのか。ある程度計画を立てて配置をしているのであれば、自治会としても、それに合わせて、自治会の経費で買っていくことが必要だと思っているので教えていただきたい。

【危機管理課】

いろいろな考えを持って整備や取り組みを行っているが、なかなかそれが皆様にうまく伝わっていないというようなことも日頃から感じている。こういう機会を通じて不明な点等をしつかりとお伝えさせていただきたい。

【危機管理課】

まず、小学校を避難訓練に使うということについては、他の小学校で校舎全体を使って訓練されている事例があるため、可能ではないかと考えている。ただし、学業の場というところもあるので、学校長との調整は当然必要になってくようかと思う。危機管理部としても必要があれば教育委員会との仲立ちをさせていただく。基本的に小学校の避難時に使う場所というのは、普通教室も含めてカウントをしている。ただ、どうしても個人情報がある職員室であるとか、校長室であるとか、常識的に考えて駄目なところは省いている。

次に、鳥取市の備蓄品についてだが、鳥取市が想定する最大の避難者数というのは、鳥取県が県内で起きた大規模な災害（震災）のときに起こりうる、避難所に来られる最大の避難者の想定を出しており、一番多いのが鹿野・吉岡断層の地震ということで2万4,000人となっている。そのうち鳥取市としては8,000人分を備蓄している。約3割というところだが、2万4,000人分を常時持つておくのは管理の面と財政的な面で負担が大きいというところから、鳥取県内の19市町村と鳥取県とで最大の2万4,000人というのを、各自治体の備蓄品で賄おうと、各自治体の人口比で負担し、それを災害時に融通し合おうという考え方をとっている。この8,000人分について保存食や保存水等を備蓄しているわけだが、当市の場合は集中備蓄と分散備蓄という考え方をとっており、大多数は防災拠点である鳥取市役所の防災備蓄倉庫や各総合支所に分散させているが、発災時にすぐに必要になる簡易トイレや毛布等については被災者の方が使うであろう公民館や小学校などに一定程度分散をさせている。その物の量については、避難所の大小に関わらず一定数分散をさせているという考え方で、特に小学校など学業の場というところや場所の兼ね合いもあり、以前の調整では2カート分のカートに入る物量を保管させていただいているというところが今の市の備蓄物になっている。

鳥取大学については、平成27年に避難所の施設利用に関する協定を結んでおり、そのうち屋内の施設としては、武道館と体育館を避難場所として使わせていただけることになっている。そのときに算定した収容人員数としては、1,100あまりということで、これまでそういった実績はないが、協定の中では、市からの要請のみならず、地元の町内会や自主防災会などから直接鳥取大学に連絡があれば避難を受け入れるという内容にはなっている。

【危機管理課】

これが今の本市の考え方なので、これはどうだろうかというようなところがあればお聞かせ願いたい。

県民体育館の話もあったが、皆さんがどこに避難しようかと思ひ浮かぶのは、地域になじみのある地区内の施設かと思うが、鳥取市としてはどこの地区がどこということは決めていない。例えば、台風が来るときに、事前に自主避難所を開設して受け入れができるように準備をしている。全てにわたって開設というのはなかなか人間的な部分もあって難しいところもあり、とりわけ安全なところに開設をして、不安がある人については事前に逃げていただいている。それなりの設備と、ある程度の広さがあるところで安全なところを選んで設置をしているというのが実情で、避難する場所に決まりはないので、県民体育館が設置されたときに湖山だけでもどうだろうかということは考えていただかなくても、避難していただければ良い。実際にそのような方もあり、受け入れできる部分はしっかりと受け入れを行う。

備蓄品については、これで足りるというものではないので、これからもしっかりと努めていくが、全てを公的な備蓄でというわけにはいかない。一人ひとりに意識を持っていただき、何かがあったときには皆さんの力を集結して何とか堪え凌ぐことになると思うので、その辺りの意識啓発等を行っているのが実情である。

全ての人が全部受け入れられないのが不安だという気持ちもよくわかるが、18万人の鳥取市の人口を自宅以外のところで全部を受け入れるというのは、なかなかできない状況もあるので、例えば浸水害であれば、自分の命を守るための行動をとるために何が良いのかというと、2階に上がって水が来ないところに何とか逃げる。そうすれば1日、あるいは長くても2日あれば水が引き、その間に自宅の冷蔵庫に食料があればそれで何とかもつというような考え方も持っていただきたいというのが鳥取市の考え方となっている。その上で、各地域で、ここを自主避難所として自分たちで設けて、逃げる場としてシンボルとしておきたい、あるいはこの人のためにはここが良いというようなことがあろうかと思うので、それはしっかりとその地域の中で話をしていただき、そのためにはこういったものが必要だがどうだろうかというような考えもお聞かせいただきながら鳥取市としても、なるべく支援ができるような体制を整えているところで、これからそのような考え方でいきたいと思っている。

【地元】

昨年、鳥取市全域に避難情報が出たときに、湖山小学校が避難場所で開催されたが、いざ開けてみたらエアコンが使えるところが限られており、避難所にできてないという問題が出ていた。各地でいろんな意見が出ていたと思うが、学校との擦り合わせや昨年の状況を踏まえ、何か改善されたことはあるか。

【危機管理課】

昨年の台風第7号は、鳥取市全域に緊急安全確保を出したのが初めてのことで、もうどうにもならないというようなことの中で出させていただいた。これも散々どうしたら良いかという話も聞くが、まずは命を守る行動を取っていただくのが一番。避難情報の中でも、「緊急安全確保」は格段にレベルが違い、「逃げろ」という話ではあるが、実は「外に出るな」というのも一つ大

きなポイントである。そのため、時間帯のこともあり、緊急安全確保を出して皆さん逃げてもらふべきなのかどうなのか、実は非常に悩んだ。ただ、本当にしていただきたいかったのは自宅の2階など高いところに行って水を回避するということだが、平屋の方もあるためそういう人をどうするかといった話もあり、とにかく学校を開けて2階以上に避難していただくというようなことで判断した。一遍に開けられれば良いが、人員のことなどもあり、なかなかそういうわけにはならず、夜遅くなったというのは大変申し訳なかったと思う。ただ、そこを「開いています」と案内をして、人がいないから開いてなかったということで帰っていただくというようなことになると、さらに被害を及ぼすかもしれないということで、開いたところから避難情報を出させていた。これがよかったのかどうかについてはしっかりと検証を重ねている。

学校の話ということだが、その時に、学校、自主防災会ともしっかり話をしていろいろご意見をいただき、どこに逃げるかといったらやはり地域に一番身近なのは小学校。小学校に逃げるときに、開いてないということはどうだろうかということで教育委員会と協議を行った。今までは教育委員会はこちらの方で開けるといって、鍵を本庁舎から持って行き、避難所の要員が行かないと開けられない状況だったが、今年度から、地区公民館の中に鍵をお預けし、まずは地域で開けて命を守る場を作り、その2階とかを使っていただけるようにしようという体制だけは整えたということ。その上でどこに逃げたら良いかということは具体的に考えないといけないところにはなるが、学校の使い方としてはそういったところを整えてきている。ただ、そこまで行くのが本当は危険だということもあるので、そこは十分考慮した上でそういう行動をとっていただくことが必要かと思う。

湖山地区というのは、危険だなということもあるが、例えば、防災マップの42ページを見ていただくと、湖陵高校や鳥取大学の前の辺りは白いところがある。水に関する部分は、ここはおよそ心配ないだろうということになる。色が付いているところも、左上の凡例を見ていただくと、大体色としては3m。3mといえば、大体1階のところだろうというのが、この薄いところで、さらにというところは2階まで来るので、何とかそこを回避しないといけない。そういう見方だということをまず皆さんに覚えていただいて、その中でも地域の中で高いところに建っている家や低いところに建っている家があるが、そこを自分たちで考えて、私の家はそのときは大丈夫だから2階で良いとか、どこかに逃げないといけないというときは、そのときにどこに行くか、町内の集会所に行こうか、みたいな話を、町内ごとにいろいろ話をさせていただくことが必要かと思う。その中で、これが足りないというようなことがあれば、しっかりとこちらの方もお聞かせ願いたい。

【地元】

私の町内会では、昨年8月の台風と7月の大雨のときに、有線放送で自宅に待機するように放送を行った。一昨年前に、まずは垂直避難をするよう町内で取り決めを行い、そのように放送をしている。垂直避難をする理由も、鳥取市の防災アプリを活用し調べて、各戸に配布している。

町内に支援が必要な人は幼児、障がい者、高齢者全部合わせて20数人おり、何かあったときには連絡をしてもらい自主防災会の人や町内の元気なお年寄りが行くことにしている。その際には集会所に連れてきて、自宅にある食料や毛布等必要なものを持って行くということを取り決めている。

そういったときに、集会所で避難所の検証を行った。停電を想定し、冬に一晩過ごしてみたが、明かりは何とかなるが、暖房が一番難しかった。発電機をいろいろ試してみたが集会所でそれなりの暖をとろうと思ったら、30万円くらいのガス発電機を使わないともたないと感じた。日常的な消耗品については、町内会で十分対応できるが、高額になるため、備品に対する補助等もご検討いただけたらと思う。

避難情報についてだが、やはりあのときにいろいろ聞くと、当然佐治は大きな被害になっていたと聞いているが、この辺りはほとんど関係ない世界で、むしろ一人暮らしの高齢者はそれで不安がっていた。「有線放送で動くなと言ってもらい、ありがとう。」とわざわざ家まで来てお礼を言われる方が何人もあった。災害情報と避難情報を精緻に出すのはなかなか難しいかもしれないが、少なくとも北部であるとか南部であるとか、避難情報の出し方について少しご検討いただけたらと思っている。

鳥取市の備蓄の状況を少しお聞きしたが、それがすぐに持ってこられるとは限らないと思う。当然、ご家庭のものもあるが、自治会としてもある程度のものは準備しておこうと思っている。ある程度の想定はしているが、それで良いかわからないこともあり、他の地区の状況を少し伺ったりはしている。他の地区の先進事例で参考になるような事例があれば伺いたい。

【危機管理課】

まず、避難情報の出し方についてだが、昨年の緊急安全確保については、何を基に出したのかというと、気象台がどこで災害が起こっていてもおかしくないという大雨特別警報を北部、南部に一斉に発表されたため出したもの。私どもも実は、ここは大丈夫じゃないかなと思うところもあったが、どこで災害が起こってもおかしくないということを気象台から言われたときに皆さんにそれをお伝えしないわけにはならない、今すぐ命の安全を確保しなくてはいけないという状況であれば、大丈夫なところ、危ないところを精緻に出すということがなかなかできなかったというのが実情。これについては、どういうふうにしたらもっと皆さんに伝わりやすいか、しっかりと逃げていただける、あるいは逃げないで良い人はどこかというようなことがわかっていただけるのかということを常々私どもも感じており、気象台と意見交換を行ったり、国や県に要望事項としてあげている。まだ実現はしていないが、これはずっと続けていきたい。

備蓄のお話の中で、電気の話もあった。昨今、電気は本当に命綱で、やはりそういうことを考えていかないといけないと思う。なかなか各地区あるいは町内に30万円の助成を行うことが難しいところだが、使い方を柔軟にするなど、使いやすい制度については引き続き考えていきたい。

それから想定については、なかなかこれと言えないものはないかと思うが、先ほど言ったように、自分の地域で何が一番気をつけないといけないかということの話をする中で、このあたりの

人がどうかというような話から積み上げていくことが大切ではないかと思う。その中には危機管理課もしっかり入らせていただいて、アドバイス等をさせていただきたい。

防災マップを見ていて、この地域の中で一番気をつけないといけないのはやはり地震ではないかと思う。ご存知の方もいるかと思うが、昭和56年以前に建てられた家は危険で、能登の地震の中でもそのような家が大方倒れており、反対に、昭和56年以降に建てられた耐震基準の家は残っている。2000年以降さらに基準が変わり、最新の耐震基準の家で倒壊している家はない、あっても10%以下だろうということなのでそういうことも一つ参考にしていただきたい。耐震診断や、設計、耐震改修にもお金が必要になるが、そのようなところにも鳥取市としてはしっかりと支援をさせていただくような制度を持っているので、ぜひ皆さんに周知をしていただければと思う。

また、情報が一番大切。ご利用いただいているということだが、一人一人がスマートフォンを使う時代なので、防災アプリを入れておくと、例えば今日の雨の情報とかも出している。いろんなところで情報を出しているの、ぜひ活用いただき、この状況になったら自分はどうしないといけないかというようなことを判断できるような学習の機会等を設けていただければと思う。ぜひそのようなときには出張ってご支援をさせていただきたい。

【危機管理課】

地域で備えるべき物量についてはこれで決まりというのはないが、他地区でコミュニティ助成を使って資機材等整備をされているので、地域内でどれぐらいの物量を備えているかというところの情報は出せると思う。やはり、能登やそれまでの災害でもそうだが、発災してすぐに必要になる物資というのは、先ほど言われた暖房や、このたびの能登地震ではトイレの問題が大きく、そういったところを我々も入らせていただいて、地域の中でご検討いただきながら進めていければと思う。また、備蓄品については期限のあるものがあり、多ければ多いほど、更新の費用がすごく負担になり、我々も廃棄で困った部分がある。今は、食べ物については期限前にこども食堂に提供しながら、ロスなくできるようにというような仕組みを作っているが、普段の管理というところも特に役員をされる方々にとっては悩みどころになってこようかなと思うのでそういったところは一緒になって考えながら進めていけるのかと思う。

【地元】

防災については身近な問題からやはり、関心とか不安とか持つわけで、私が居住しているのは湖山町南3丁目で布勢のヤマタスポーツパークに近く、さっきも避難場所の話が出ていたところで、近所の人でも普段から大きな地震とか、それに伴う火災なんかが発生した場合には、小学校や中学校よりも近い布勢のグラウンド、県立体育館に避難しようというような話をしている。このヤマタスポーツパークというのは、県内の広域防災拠点に指定されている場所だが、広域防災拠点だからということで、一般の避難される方が制限されたり排除されたり、そのような心配があるのだろうか。

【危機管理課】

県立体育館だが、過去にも避難所として開設をお願いしたことがある。そのときには、どなたをと制限をすることはないが、これが大規模災害で鳥取市の多くのところに災害があり、そこが拠点となりそこで何か活動をしなないといけないという状況になってきた時点では、移動してもらったりということがあるかもしれない。ただ、今すぐに、命が危ないとそこに逃げ込むというときに、そこが防災拠点だから入れないということはない。

【地元】

私の家には、高齢の母親が住んでおり、体調のこともあり、福祉施設を行き来するような状況が続いている。避難場所に関連して、福祉避難所というのが鳥取市の管内に44ヶ所くらい協定されているということだが、過去に各地域の大規模な災害や地震などのときに、直接、福祉避難所に殺到されて全く機能しなかったというような事例がある。今、どこの高齢者福祉施設も満杯で一切受け入れができないということを聞いているが、実際に災害が起こったときに、受け入れができる余裕が実態としてあるか。

【危機管理課】

福祉避難所については福祉部が管轄をしながら采配をしている。考え方としては、直接福祉避難所があるからそこに行くというようなことには実はなっていない。まずは避難所に行ってもらい、その中で保健師等がその場で状況確認をした上で、福祉避難所と目されるところと調整し、そこに送るというようなことになろうかと思う。ただ、本当にそのようなときに全部受け入れられるのかどうかについては、まだまだ課題があると考えているので、このところもしっかり受け止めて、福祉部とも話をしていく必要がある。

【地元】

それでは避難場所に保健師さんが来られて、いわゆるトリアージみたいな形で症状に応じて、病院や福祉施設に選別されるという理解でよいのか。

【危機管理課】

基本的には、まずは普通の避難所に行き、そこで要配慮者スペースといったところで滞在していただく。長期化が見えてくるような状況になったら保健師を中心とした対策チームが回り、トリアージをさせていただきながら、宿泊施設等とも協定を結んでいるところがあるので、状況によって福祉施設や宿泊施設に泊まっていただくというようなことも含めて調整をさせていただくことになると思っている。

【地元】

避難場所のことで鳥取大学と協定の話が出ていたが、鳥取大学災害対策規則の第8条に「本学は、消防署、警察署、自治体その他関係機関等から近隣住民の緊急避難場所とするため、又は被災地域における人命救助その他救護活動等のために施設の提供の要請があったときは、可能な限り提供する」ということになっており、それに基づいて、決められているのかと思うが、例えば湖山地区公民館が直接鳥取大学に対して、避難場所として開けていただくようなお願いはできるということか。

【危機管理課】

協定上はそうになっている。

【危機管理課】

基本的にはそのように考えていただいて問題ない。一番考えないといけないのはどうすれば命を守れるかであって、命が危ない状況を回避するために、それが必要だというときにはその選択をするということになるかと思う。ただ、市としてもそういった情報は欲しいところなので、こうしたいという話があればぜひご相談もいただきたい。一報を入れていただくことでスムーズに進む場合もあるかもしれない。鳥取大学ともしっかりと確認作業等もさせていただきたい。

【地元】

地域的には湖山西にはなるが、鳥取商業高校や湖陵高校も、避難場所として使えるような話にはなっているか。使用について何か取り決めがあれば教えていただきたい。

【危機管理課】

湖陵高校も商業高校にしても湖山西地区に所在する避難所ということになっている。ただ鳥取市のこれまでの運営の実態として、市の施設を優先して開けているというところがあるので、高校等を実際開けたという事例は私が知る限りない。やはりそういったところでも連携し、実際に開ける場合の手順等、今後の課題かと思う。

【危機管理課】

災害に関する机上のことは、こうしてあるということを行政の職員が言うわけだが、実際にどうかというところもあると思う。今日を皮切りに、そのようなことをざっくばらんに教えていただき、それに対してどう対応しないといけないかというようなことを、しっかりと協議検討させていただきたいと思っている。

【地元】

最近、この辺は水害というのはなかなか想定されていないということで、一番怖いのは地震だろうと区内でも話はしている。鳥取大震災から80年ぐらい経つので、もうそろそろ来てもおかし

くないなというようなことを感じているし、皆さんともそんな話をしているところだが、先ほどあったように命を守る行動ということで、地震があったときには市役所の方も、自分の命を守る行動をされると思うが、こういう大震災が来たときに、どの程度のことを想定されているのか、例えば各地域に出張って、救済や救援などをされるのか想定があればお聞きしたい。

【危機管理課】

想定というのは、想定していけばしていくほどということになるわけだが、到底そのエリアだけで全てを完結というわけにはならないと考えており、支援を受けるということが必要で、日本中がそのような仕組みになっている。私どもも能登の方に職員を派遣して支援に行き、ボランティア等も大活躍をしていた。そういった支援を受けるための仕組みを、しっかり作らないといけないということで、受援計画を策定し、どこでどのような経路で支援を受けるのか、あるいは自衛隊等に誰がどういうふうに連絡をしていくのかというような部分をつくり、道筋をつけている。先ほどあったようにどこを基地にするかというようなこともある。来年は東部の消防局で、そういったような災害の支援のためには、どこにどう集まればいいのかという訓練も予定をされている。これだけではなく、原子力の時には境港やそういうところを受け入れる場合の準備はどうしたらいいのか等の話や訓練をしているところで、自分たちだけでどうだということではなく、広く支援を受けながらその中でどう動いていただくのかということを考えることが必要だと思っている。

備蓄に関しても、先ほど来申し上げたように、お互いの助け合いを基本に考えていく、それが今の考え方ということになる。

【危機管理課】

補足させていただくと、熊本地震の時に起こっていたのが、外から支援に来た行政職員が、例えば建築に長けた方が来られたが、専門を活かせず避難所の運営に行かせていたというようなことが起こっていて、なかなか住民の皆さんの支援や助けができなかったというのが反省点として挙げられており、それを受け、鳥取市としても、昨年度、受援計画を策定した。

受援計画が何かというと、被災時に起こる業務や支援に来てくれる人たちをどのように受け入れて、どこで何をしてもらおうかというようなことや、市の中でどこが受け入れて、どういうふうに采配するかみたいなところを定めている。ただやはり計画のため、実働が伴わないといけないということで昨年度から、訓練や多くの機関とも協力しながら進めようとしている。

【地元】

何か来てしまってからでは遅いと思うので早急によろしくお願ひしたい。

【地元】

今、町区長が集まっているが、緑風高校の近くの南方面が一番多い。実際には、一番近い緑風高校は、浸水時は2階以上で避難可能となっているが、実際に2階以上が使えるのかが一番不安なところ。地震の時には避難所になるわけだが、南団地一帯が造成地のため、液状化で寸断されないかと予測をしている。実際の浸水時は体育館に避難ができないということになれば、先ほどからずっと出ているヤマタスポーツパークや鳥取大学というところもあるが、一番身近なところにある2階以上の教室を開放していただいて、一旦そこに避難できればある程度の場所は確保できると思う。一番の希望としては、やはり我々の立場からすると一番近い緑風高校が何とか利用できたらと思うので、市と県で管轄が違うと思うがその辺の調整もお願いしたい。

【危機管理課】

我々が避難所を開けるときに必ず言われるのは一番近いのに、何でここが開かないのかみたいなことは言っていて、申し訳ないところだが、いつも言うことだが、水害は地震と違ってある程度前もってわかる災害というところもあるので、特にこの地区は湖山地区公民館が自主避難所として、必ず一番最初に開くので湖山南から多少距離はあるが、空振りを恐れず、心配だということがあれば早めにそこに水平避難をしていただくということが我々としてはお願いしたいところになる。ただ緑風高校も全然開けないということではないので、そこは検討が必要だろうと思うが、やはり公的な避難所ということになると、実態としてどうしても遠い近いはできてしまう。やはりおっしゃられたように自主的な避難所、支え愛避難所と言ったりするが、そういったところを地区の中で考えていただくのも一つかと思う。

【地元】

自治連の会合でも耐震診断の案内があったが、確かに無料診断の制度があって業者からも人気があってすぐに埋まってしまうと聞いている。耐震診断の後、実際の耐震設計に入り、今度は耐震工事ということになるが、実際、その後工事をされているのはどれくらいか聞いたら、2割くらいと言われていた。改修工事の補助額は増えてはいるが、工事にかかる費用を考えると、特に高齢者であれば、今回の能登の地震のように公費解体をしてもらい、仮設住宅に入らせてもらえば良いという考え方になりかねない。PRはしてもなかなか進まない、踏み切るきっかけが必要だと思う。耐震設計や工事費用が安くなることはまず難しいが、他の自治体ではバリアフリーと抱き合わせで支援する制度があったりしている。安価でできるものやいろんな方法を探っていただき、実際の行動に移れるようなものにしていただきたい。

【危機管理課】

都市整備部でこういう制度を持っているということでご紹介させていただいた。これだけで全てということにはならないというのも十分承知している、さらに耐震化が必要だ、これが命を守る行動の一つだというのも十分理解をしているつもりなので、その中でどういったことをすれば

一番効果的なのか、どうしたら命を守っていただけるのかというのは常々考えさせていただく。今日のご意見は持ち帰ってそのことをお伝えさせていただきたいと思う。

【市民生活部長】

自主防災会での取り組みで、避難の必要な方を支援していることや、地元の声等、良いお話を聞かせていただいた。また、鳥取大学や緑風高校等、避難所について一番多く話をいただいた。これについては、県や国の機関との調整というのもこれからの課題だと思っている。

手探りな部分もまだまだあるが、引き続きしっかりと支援をしていきたい。今日は1時間半余りではあったがご意見いただき感謝申し上げます。

【地元】

事前に思っていたより、ある程度具体的な話や、取り組んでいること等、以前の懇談会より遥かに実のある話になっているのではないかとと思っている。7月20日には町区長会で鳥取大学の香川先生を呼んで地震の講演と意見交換を予定している。これを機会に、鳥取市のアドバイスを受けながらできるだけ地域の防災力を高めていきたいので、今後ともご支援をお願いしたい。